

児童生徒の思考力・判断力・表現力等の能力を育む「西部型授業」

本年度、佐賀県では「児童生徒の活用力向上研究指定事業」を実施しています。

その中の肥前中学校区での取組を紹介します。肥前中学校では、国語科の活用力を「学習で身に付けた力を日々の言語活動に生かす力」と定義し、その力の向上を目指した授業づくりに取り組まれています。以下は第3学年で行われた「句会を開こう—豊かな言葉のつかい手になろう—」という単元の6/8時間目について、板書を基に説明したものです。

生徒は前時までに教科書教材等を読んで俳句についての知識を得ています。そして、その俳句についての知識を活用して修学旅行での感動を俳句にしました。本時は、自分たちが詠んだ俳句を自分たちで評価する句会という言語活動を行います。俳句についての知識を活用して推敲したり、評価したりすることで、判断力を高めるとともに知識の定着を図ります。また、友達の評価に傾聴し、自分の俳句をもっとよくするための表現の工夫に気付いたり、ものの見方を広げたり深めたりします。本単元の学習を通して、生徒は思考力・判断力・表現力等を養い、活用力を向上させると考えられます。



第3学年 単元名「句会を開こう—豊かな言葉のつかい手になろう—」（本時 6/8時間）

まとめ	パーソナルワーク ~10分	クラスワーク ~10分	グループワーク ~20分	パーソナルワーク ~10分	めあて
俳句のよさを説明するには、表現の工夫やその効果について具体的に説明するとよい。	夏の青い空と、 噴水の水が <u>気持ち</u> よさそう。	共感できる。 <u>比喩</u> が効果的。	夏の旅帰宅後すくの <u>ねむりこみ</u>	夏空に舞い上がる <u>水星</u> のよう	句会を開こう よいと思った俳句を選んで そのよさを他の人にも説明できる ようになる。 披露
	空の青と雲の白が <u>対比</u> されていて美しい。	<u>初句切れ</u> <u>擬人法</u> で 迫力がある。	夏の空 <u>真っ青</u> に雲 <u>美し</u> き	汗光るいまだ忘れぬ恐怖心	
	共感できる。 「 <u>ねむりこみ</u> 」 が新鮮だった。	共感できる。 <u>体言止</u> めで <u>余韻</u> が残る。	海涼し大きな鳥居 <u>こっち</u> 向く		

5「振り返る」過程

学んだことや感動したこと（学習内容や方法）を自分の言葉で書く。キーワードを使ってめあてに応じてまとめる。

4-1「考え合う」過程

グループワークで、よいと思った俳句を1句に絞り込む。理由を明らかにして協議する。短冊に書いて黒板にはり出す。

4-2「考え合う」過程

グループで選んだ俳句のよいところをキーワードだけを書き、全体に説明する。

3「考える」過程

パーソナルワークで、自分がよいと思う俳句を絞り込む。理由を明らかにして選句する。3句→1句

1「つかむ」過程

単元名と本時のめあてを確かめる。

2「見通す」過程

俳句についての知識を確認し、選句の観点をもつ。

未来を「生きる力」を子どもたちに！ 「グローバル化に対応した英語教育」について考える



文部科学省では「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」(平成 25 年 12 月 13 日)を提示し、2014 年度から改革を推進しています。http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/_icsFiles/afieldfile/2013/12/17/1342458_01_1.pdf

計画の中には、中学校では「授業は英語で行うことを基本とし、内容に踏み込んだ言語活動を重視」することを、小学校では高学年で教科型の英語教育に、中学年で活動型の英語教育に取り組むことを掲げています。また、本年度、6月5日付けで「生徒の英語力向上推進プラン」も出されました。

<http://www.aizu-eo.fks.ed.jp/111101sidou/eigo/150610eigoryoku-koujyou-puran.pdf>

8月5日には、中教審の特別部会で次期学習指導要領の改訂骨子案を提示して、ポイントに「小学校5、6年生の外国語活動を教科の英語とし、3、4年生から外国語活動を開始すること」を挙げています。

2. 改革の考え方

- ◆ 生徒の着実な英語力向上を目指し、国及び県で明確な達成目標(GOAL2020(平成 32 年度))を設定
 - ◆ その達成状況を毎年公表して、計画的に改善を推進
- 第 2 期教育振興基本計画中の成果目標 (平成 25 年～29 年)
- ※中学卒業段階に英検 3 級程度以上 50%
 - ※高校卒業段階に英検準 2 級～2 級程度以上 50%

図 1 「生徒の英語力向上推進プラン」一部

外国語教育の充実《佐賀県の取組の紹介》

- 小学校英語教育専科指導教員加配事業 嬉野小、北明小、三田川小
- 小学校英語実践トレーニング
- 外部専門機関と連携した英語指導力向上事業
 - ・英語教育推進リーダー中央研修派遣
 - ・英語教育推進リーダーによる伝達講習会
[小学校]7月22日、27日、8月24日
[中学校]7月23日、8月6日、26日
 - ・英語指導力向上事業(文学省指定) 嬉野小、城西中、白石高
 - ・佐賀大学英語力向上研修 12月25日、28日
(小学校教員30名、中学校英語教員20名)
- 外国語教育充実プラン事業
 - ・滝野中、玄海小、玄海中、唐津青翔高、唐津東高



図 2 佐賀県での取組み (一部)

「英語教育推進リーダーによる伝達講習会」では、小学校、中学校それぞれ内容の濃い研修が行われました。小学校では、Classroom English を中心に、英語で指示を出す演習や、ゲームを活用した外国語活動に実際に取り組んで理解を深め、中学校では講習会の全てを All English で行い、英語で行う授業のイメージをもつことができました。

この研修は、H27～H31 年度の5カ年計画で行われ、中学校では英語教員の全てが、小学校では中核教員が受講します。受講者は自校の校内研修等で、研修成果を広め、研修体制を作り上げることに貢献します。



Good morning, everyone.
How are you today?
I'm fine, thank you.
Stand up. Sit down.
Make pairs. Well done.
Look at the board.
Listen. Are you ready?

声の広場

第1号を発行に当たって、たくさんの学校からエールをいただきました。たくさんの学校が「西部型授業」を基にした実践に取り組んでいらっしゃるの分、心強く思いました。一部を紹介します。

《チーム学力向上》「どのようにしてチームを作っているか」について

- 小学部・中学部の研究主任・学力向上対策コーディネーターが協力して校内研究の「学び」部会を中心に「西部型授業」の実践を進めています。
- 「生徒指導」同様、「学力向上」も担当学年や担当者だけでなく、学力向上対策コーディネーター(教務主任)や研究主任、学級担任等それぞれの立場の職員で構成されるチームとしての取組が重要であると感じます。
- 家庭訪問期間中、級外主導で復習会を行って効果があった。また、指導者集団のモチベーションが高まった。
- 西部型授業の取組のために事例集を活用しています。 次回は《西部型授業》について声をお寄せください。